

ことばのちからで街おこし

松山市ことばのちから実行委員会 委員長 藤田 晴彦



きっかけ

21世紀を目前に控えた2000年(平成十二年)、松山市は新たな街の活性化を目的として、各分野で活躍する人材を集め、「松山21世紀イベント協議会」を発足させ、同イベント事業をスタートしました。

正岡子規や高浜虚子などの文人を輩出し、夏目漱石の「坊っちゃん」や司馬遼太郎の「坂の上の雲」の舞台となるなど、松山は文化的土壌に恵まれたまちです。事業に取り組むにあたり、それらを生かせるようにと「ことば」を軸に据えることにしました。社会の変化の中でコミュニケーションの希薄化が問題視されていることも背景にありました。

事業の幕開けは、21世紀に残したい、伝えたい「だから、ことば大募集」。

「あなたのことばが松山を元気にし、文化をつくります」のキャッチコピーで次の世紀に残したいことばを募集。全国から1万点を超える様々な「ことば」が集まりました。

3年間という期間限定の21世紀イベント

ト事業はその役目を終え解散しましたが、引き続き「ことばのちから」による事業を展開するため、2003年「ことばのちから実行委員会」を設置し、「ことばのちから」をキーワードとして各種事業を展開していくことになります。

「ことばのちから実行委員会」は、松山市が「ことばを大切にすまち・松山」として全国に情報発信するための事業を調査研究、企画調整するための組織です。委員は松山市長が委嘱します。デザイナーや俳人、アナウンサーやコピーライター、元プロミュージシャン、保健福祉、演劇、教育など様々な分野に関わる委員14人で構成されています。

事業内容

「ことばのちから事業」の一部をここにご紹介させていただきます。

松山市全体を大きなキャンバスに見立て、「街はことばのミュージアム」をコンセプトに、「だから、ことば大募集」応募作品の中から選出した30あ

まりの優秀作品を、空港、松山城山ロープウェイ、電車、リズムバス、ビルの看板、商店街など、多くの人の目に留まる場所へ掲示しました。予算に限りがあるため、掲示するスペースの提供を民間企業や市民にも協力して頂きました。また、掲げたことばが雑音にならぬよう適材適所とデザイン性にも配慮しました。

2005年には、「千の風になつて」の訳詩



路面電車に描かれた「ことば」



松山空港階段の「ことば」

でも知られる芥川賞作家の新井満さんが、前述のことは募集で松山市長賞を受賞した、「恋し、結婚し、母になったこの街で、おばあちゃんになりたい！」の作品に感動し、「この街で」という歌を作ってくれた幸運を得ます。以降、10組以上のプロアーティストによりCD化され全国発売。今ではすっかり松山市民の愛唱歌として定着しています。

他にも、高校生が5人1チームで俳句を作る力と鑑賞する力を競う「俳句甲子園」(2005年『恋は五・七・五!』として映画化し全国公開)や、小中学生の各チームが、みんなで心を合わせて詩を群読する「響け!!言葉」ことばのがつしよ「群読コンクール」、今まで言えずにいたことばを市民が見守る中で交わし合う人前結婚式「この街でウェディング」、正岡子規の俳句に新井満さんがメロディをつけた歌「春や昔の発表など、ことばを使ったイベントを次々と展開してきました。その度、ことばにすれば心がかわる現場を多く目にしてきました。



松山観光港に掲げられる「ことば」

事業の成果

ことば募集入賞作品は、申請さえすれば誰でも無料で自由に使用することができま

す。「恋し、結婚し、母になったこの街で、おばあちゃんになりたい!」

を店頭に大きく掲げた銀行や書店の業績が上がったと伺ったこともありまし、市内の幼稚園の窓には、

「いろんな子 いっぱいおって かまん! かまん!」

の作品が描かれ、

「あなたにとつて他人でも、みんなだれかのだいじんな人です。」

と描かれた介護施設の車両も多く走り、町の空気を和ませてくれます。

女子高生の間で、「ピカソはピカソ 私は私」と書かれた市内電車を見たら良いことがある

という都市伝説もあったとか。

思いも寄らぬ朗報もありました。「グッドデザイン賞2013」と総務省から頂いた「平成27年度ふるさとづくり大賞」の受賞。グッドデザイン賞では「年齢や地域を越えたコミュニケーションを実現している。街のブランディングはもとより、市民の交流、活性化に貢献している。全国からことばを募集する仕組みも、開かれた活動として好感がもてる。」ふるさとづくり大賞では、「『ことば』そのものに目をつけた点が画期的。文化のまち松山らしさが表れてお

り、ユニーク。先人たちが残した地域の宝として受け継がれている文学的遺産子を未来に繋げて頂きたい。」と、取り組み自体が評価された賞です。

平成29年には、正岡子規・夏目漱石生誕150年という、ことばのまち松山にとつて大きな節目を迎えました。今後も、松山にお越しになる方々、そして市民の皆様の手を、ことばで温め、癒し、奮い立たせるお手伝いができればと思っています。

事業の中で、ことばを大切にする気持ち、相手を思いやる気持ち、さりげなく人々に養われているならば、それ以上の成功はありません。



松山市役所1階の天井からつり下げられた「ことば」